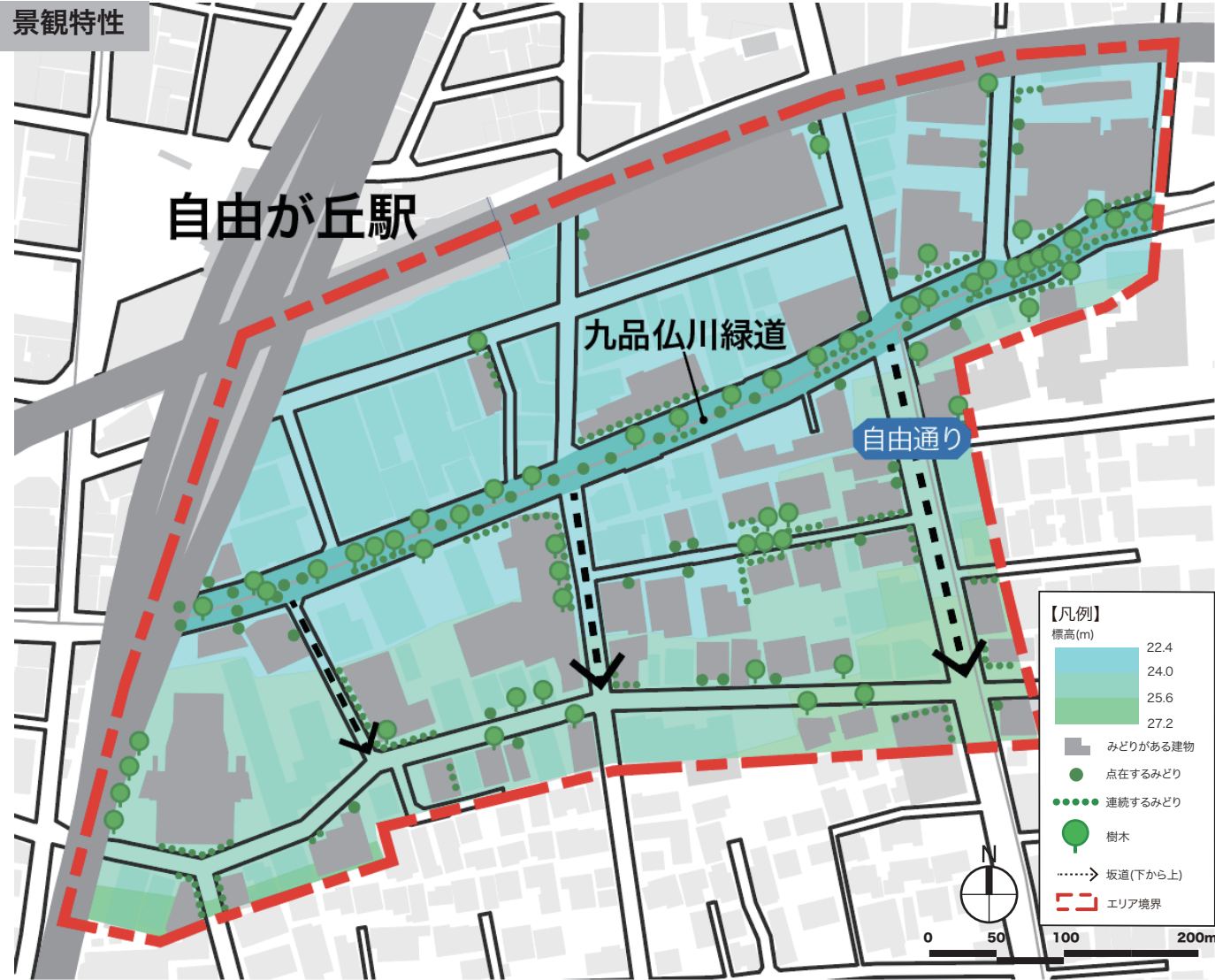


4-1 自由が丘商店街エリア

自由が丘駅の南側に位置し、九品仏川を暗渠とした九品仏川緑道から形成される谷地形のエリアです。用途地域は商業地域で、九品仏川緑道を境に北側は駅周辺に商業施設や商店街、南側は住宅と商業が一体になった施設が広がっています。九品仏川緑道沿いは、店舗が一列に向かい合って配置されていて景観が整っています。

景観特性



1. 高さの統一された駅周辺の街並み



駅前には、スーパーなどの日常的に必要な店舗から、飲食店、アパレル店など様々な種類のテナントが入っている雑居ビルが連立しています。雑居ビルが立ち並ぶ街並みであるものの、建物の高さの統一感や、舗装された道などからなっており、上品な景観になっています。

2. 緑道に向かい合う商店街



九品仏浄真寺から緑が丘駅に続く、約1.6kmの九品仏川を暗渠とした緑道です。そのため、緑道を底とした高低差のある地形をしています。その沿道には、緑道に向かった店構えをする店舗が建ち並び、統一感があり、整然とした景観になっています。緑道には、植林とベンチが設置されており、空間に一体感を与えています。

3. 住宅と商業が混合する街並み



マンションや、一階が商業施設が入っている住宅が混在している、自由が丘の商業ゾーンと住宅ゾーンをつなげる場所になっています。駅周辺商店街に比べると、人通りが少なく閑散とした場所となっています。道幅が広く、建物間にみどりがあることで落ち着いた景観を形成しています。

景観形成の目標

九品仏川緑道を中心とした、みどり溢れる景観の保全

本エリアは、緑道のみどりと景観の多様性を保全し、さらに引き出すための整備を行うことを目的とする。

景観形成の方針

1. 緑に挟まれたエリアの緑化で地域をつなぐ

景観形成の考え方

駅北側と緑道をつなぐ商業施設にみどりを加えることで、周囲の緑に富んだ景観との調和を形成する。

具体的な方策

- 開放感のある街路を活かし、商業施設の壁面を緑化する。
- 高さ統一感のある景観を利用し、日当たりの良い屋上を緑化する。
- 商店街のグランドレベルに、緑化ルールを設ける。



壁面の緑化により緑視率を高める

2. 緑道の沿道店舗の緑化を促進し、九品仏川緑道の景観軸を強化する

景観形成の考え方

緑道沿いの店舗を緑化することで景観の統一感を出し、緑道のみどりを街全体につなぐ。

具体的な方策

- 沿道店舗の緑化を進めて、緑道と呼応させる。
- 無電柱化を進めることで景観を整える。
- 緑化を沿道店舗のデザインに取り入れる。
- コミュニティ、企業参加型のみどり保全イベントを開催する。



無電柱化し緑で景観に統一感を出す

3. 広い道を活かした、歩車分離された安全な緑の道を形成する

景観形成の考え方

見通しの良い開けた車道を活かし、歩道と車道の間を緑化する。

具体的な方策

- 歩車道境界に花壇を設置する。
- 植樹は低木などを利用し、視界のひらけた広々とした景観にする。
- 一階が店舗となっている建物は、一階部分をセットバックし、緑化する。



ガードレールの代わりに花壇で緑を連続させる